



データベースの概要

医療用医薬品の添付文書に記載されている用法・用量に関するデータベースです。

処方薬の適正な投与量（上限・下限）や投与日数（上限・下限）などのチェック、および患者さんへの服薬指導にご利用いただくことが可能です。

本データベースは、医療用医薬品の添付文書に記載されている用法・用量の情報を網羅しています。

データベースの特徴

年齢や体重、体表面積、適応病名、投与経路、療法毎にデータを作成しているため、条件に応じた適正なチェックを行うことが可能です。また、腎機能低下時の注意データベースとあわせてご利用いただくことで、腎機能の低下状態に応じた投与量のチェックを行うことも可能です。

小児や高齢者の用量に対応

添付文書に記載されている小児や高齢者などの年齢別の用量について、それぞれデータを作成しているため、年齢に応じた適正なチェックを行うことが可能です。

例

年齢の登録に基づき、該当の年齢に応じた「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ザイザルシロップ0.05%』の添付文書（抜粋）

〔小児〕

通常、**6ヵ月以上1歳未満**の小児には**1回2.5mL**（レボセチリジン塩酸塩として**1.25mg**）を**1日1回**経口投与する。

通常、**1歳以上7歳未満**の小児には**1回2.5mL**（レボセチリジン塩酸塩として**1.25mg**）を**1日2回**、朝食後及び就寝前に経口投与する。

通常、**7歳以上15歳未満**の小児には**1回5mL**（レボセチリジン塩酸塩として**2.5mg**）を**1日2回**、朝食後及び就寝前に経口投与する。

『ザイザルシロップ0.05%』のデータ（概略）

年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
6ヵ月～1歳未満	1回当り	1.25mg	2.5mL	1回
	1日当り	1.25mg	2.5mL	1回
1歳～7歳未満	1回当り	1.25mg	2.5mL	2回
	1日当り	2.5mg	5mL	2回
7歳～15歳未満	1回当り	2.5mg	5mL	2回
	1日当り	5mg	10mL	2回

■ 体重当りや体重別の用量に対応

「体重当りの用量」や「体重別に異なる用量」についてもデータを作成しているため、体重に応じた適正なチェックを行うことが可能です。

例

体重の登録に基づく適正な用量の算出により、「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『フロモックス小児用細粒 100mg』の添付文書（抜粋）

通常、**小児**にはセフカペン ピボキシル塩酸塩水和物として**1回3mg（力価）／kg**を**1日3回**食後経口投与する。

なお、年齢、体重及び症状に応じて適宜増減する。

『フロモックス小児用細粒 100mg』のデータ（概略）

年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
小児 （7歳～15歳未満）	1回当り	3mg/kg	0.03g/kg	3回
	1日当り	9mg/kg	0.09g/kg	3回

例

体重の登録に基づき、該当する体重別の用量における「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ディオバン錠 40mg』の添付文書（抜粋）

通常、6歳以上の**小児**には、バルサルタンとして、**体重35kg未満**の場合、**20mg**を、**体重35kg以上**の場合、**40mg**を**1日1回**経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

ただし、1日最高用量は、体重35kg未満の場合、40mgとする。

『ディオバン錠 40mg』のデータ（概略）

年齢区分	体重	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
6歳以上の小児 （6歳～15歳未満）	35kg未満	1回当り	20mg	0.5錠	1回
		1日当り	20mg	0.5錠	1回
	35kg以上	1回当り	40mg	1錠	1回
		1日当り	40mg	1錠	1回

■ 体表面積当りや体表面積別の用量に対応

「体表面積当りの用量」や「体表面積別に異なる用量」についてもデータを作成しているため、体表面積に応じた適正なチェックを行うことが可能です。

例

体表面積の登録に基づく適正な用量の算出により、「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『カルセド注射用20mg（20mg 1瓶）』の添付文書（抜粋）

通常、**成人**にはアムルピシン塩酸塩として**45mg（力価）/m²（体表面積）**を約20mLの日局生理食塩液あるいは5%ブドウ糖注射液に溶解し、**1日1回**3日間連日静脈内に投与し、**3～4週間休薬**する。これを1クールとし、投与を繰り返す。



『カルセド注射用20mg（20mg 1瓶）』のデータ（概略）

年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
成人 （15歳～65歳未満）	1回当り	45mg/m ²	2.25瓶/m ²	1回
	1日当り	45mg/m ²	2.25瓶/m ²	1回

例

体表面積の登録に基づき、該当する体表面積別の用量における「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ティーエスワン配合OD錠T20』の添付文書（抜粋）

通常、**成人**には初回投与量（1回量）を体表面積に合せて次の基準量とし、朝食後及び夕食後の**1日2回**、28日間連日経口投与し、その後14日間休薬する。これを1クールとして投与を繰り返す。

体表面積	初回基準量（テガフル相当量）
1.25m²未満	40mg/回
1.25m²以上～1.5m²未満	50mg/回
1.5m²以上	60mg/回



『ティーエスワン配合OD錠T20』のデータ（概略）

年齢区分	体表面積	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
成人 （15歳～65歳未満）	1.25m ² 未満	1回当り	40mg	2錠	2回
		1日当り	80mg	4錠	2回
	1.25～1.5m ²	1回当り	50mg	2.5錠	2回
		1日当り	100mg	5錠	2回
	1.5m ² 以上	1回当り	60mg	3錠	2回
		1日当り	120mg	6錠	2回

適応病名毎の用法・用量に対応

疾患毎にデータを作成しているため、疾患に応じた適正なチェックを行うことが可能です。

なお、疾患などの投与条件を考慮しない用法・用量データも別途保持しています。

例

該当の適応病名を選択することで、「疾患別」の「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ネキシウムカプセル10mg』の添付文書（抜粋）

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群

通常、**成人**にはエソメプラゾールとして**1回20mg**を**1日1回**経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では**8週間まで**、十二指腸潰瘍では**6週間まで**の投与とする。

○逆流性食道炎

通常、**成人**にはエソメプラゾールとして**1回20mg**を**1日1回**経口投与する。なお、通常、**8週間まで**の投与とする。

さらに再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、**1回10～20mg**を**1日1回**経口投与する。

○非びらん性胃食道逆流症

通常、**成人**にはエソメプラゾールとして**1回10mg**を**1日1回**経口投与する。なお、通常、**4週間まで**の投与とする。

『ネキシウムカプセル10mg』のデータ（概略）

疾患	年齢区分	投与量区分	用量 (成分量)	用量 (製剤量)	1日の 投与回数	投与日数 (上限)
胃潰瘍、吻合部潰瘍	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	20mg	2カプセル	1回	56日
		1日当り	20mg	2カプセル	1回	56日
十二指腸潰瘍	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	20mg	2カプセル	1回	42日
		1日当り	20mg	2カプセル	1回	42日
Zollinger-Ellison症候群	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	20mg	2カプセル	1回	
		1日当り	20mg	2カプセル	1回	
逆流性食道炎	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	10～20mg	1～2 カプセル	1回	56日
		1日当り	10～20mg	1～2 カプセル	1回	56日
非糜烂性胃食道逆流症	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	10mg	1カプセル	1回	28日
		1日当り	10mg	1カプセル	1回	28日

投与経路毎の用法・用量に対応

投与経路毎にデータを作成しているため、投与経路によって用法・用量が異なる場合も適正なチェックを行うことが可能です。

例

該当の投与経路を選択することで、「投与経路別」の「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『リンコシン注射液 300mg（300mg 1mL 1瓶）』の添付文書（抜粋）

【静脈内注射】

リンコマイシン塩酸塩水和物として、通常**成人**は、**1回600mg（力価）**を**1日2～3回点滴静注**する。

【筋肉内注射】

リンコマイシン塩酸塩水和物として、通常**成人**は、**1回300mg（力価）**を**1日2～3回**、又は**1回600mg（力価）**を**1日2回筋肉内注射**する。

『リンコシン注射液 300mg（300mg 1mL 1瓶）』のデータ（概略）

投与経路	年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
点滴静注	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	600mg	2瓶	2～3回
		1日当り	1200～1800mg	4～6瓶	2～3回
筋注	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	300mg	1瓶	2～3回
		1日当り	600～900mg	2～3瓶	2～3回
筋注	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	600mg	2瓶	2回
		1日当り	1200mg	4瓶	2回

療法毎の用法・用量に対応

療法毎にデータを作成しているため、療法によって用法・用量が異なる場合も適正なチェックを行うことが可能です。

例

該当の療法名を選択することで、「療法別」の「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『シンビット静注用 50mg（50mg 1瓶）』の添付文書（抜粋）

単回静注法

通常、**成人**にはニフェカラント塩酸塩として**1回0.3mg/kg**を5分間かけて心電図の連続監視下に静脈内に投与する。

維持静注法

単回静注が有効で効果の維持を期待する場合には、通常、**成人**にはニフェカラント塩酸塩として**1時間あたり0.4mg/kg**を等速度で心電図の連続監視下に静脈内に投与する。

『シンビット静注用 50mg（50mg 1瓶）』のデータ（概略）

療法名	年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
単回療法	成人 (15歳～65歳未満)	1回当り	0.3mg/kg	0.006瓶/kg	－
維持療法	成人 (15歳～65歳未満)	1日当り	9.6mg/kg	0.192瓶/kg	1回

維持療法における連続投与については、「1時間当り0.4mg/kg」を24時間当りに換算したデータを作成しています。

複数の投与量の記載に対応

用量が「体重当り」「年齢別」など複数のパターンがある薬品の場合、それぞれデータを作成しているため、処方に応じた適正なチェックを行うことが可能です。

例

『ホクナリンドライシロップ 0.1%小児用』の添付文書には、「体重当り」と「年齢別」の記載があります。このような場合、「体重当り」と「年齢別」の双方について、「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ホクナリンドライシロップ 0.1%小児用』の添付文書（抜粋）

通常、**小児**に対し、ドライシロップとして、**1日40mg/kg（ツロブテロール塩酸塩として0.04mg/kg）**を**2回**に分け、用時溶解して経口投与する。

標準投与量は、通常、下記の用量を**1日2回**に分け、用時溶解して経口投与する。

年齢	ドライシロップとして1日量 (ツロブテロール塩酸塩として1日量)
0.5～3歳未満	0.25～0.5g (0.25～0.5mg)
3～9歳未満	0.5～1g (0.5～1mg)
9～15歳	1～2g (1～2mg)

①「体重当り」のデータ（概略）

年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
小児 (7歳～15歳未満)	1回当り	0.02mg/kg	0.02g/kg	2回
	1日当り	0.04mg/kg	0.04g/kg	2回

②「年齢別」のデータ（概略）

年齢区分	投与量区分	用量（成分量）	用量（製剤量）	1日の投与回数
6カ月～3歳未満	1回当り	0.125～0.25mg	0.125～0.25g	2回
	1日当り	0.25～0.5mg	0.25～0.5g	2回
3歳～9歳未満	1回当り	0.25～0.5mg	0.25～0.5g	2回
	1日当り	0.5～1mg	0.5～1g	2回
9歳～15歳以下	1回当り	0.5～1mg	0.5～1g	2回
	1日当り	1～2mg	1～2g	2回

腎機能低下時の投与量の記載に対応

腎機能低下時の注意データベースとあわせてご利用いただくことで、腎機能低下時に投与量の調節が必要な内服薬、注射薬について適正な投与量のチェックを行うことが可能です。

例

腎機能検査値の登録に基づき、検査値に応じた「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ベタニス錠 25mg』の添付文書（抜粋）

通常、**成人**にはミラベグロンとして**50mg**を**1日1回**食後に経口投与する。

【用法及び用量に関連する注意】

重度の腎機能障害患者（**eGFR15～29mL/min/1.73m²**）への投与は**1日1回25mg**から開始する。

『ベタニス錠 25mg』のデータ（概略）

年齢区分	腎機能検査値*	投与量区分	用量 (成分量)	用量 (製剤量)	1日の 投与回数
成人 (15歳～65歳未満)	—	1回当り	50mg	2錠	1回
		1日当り	50mg	2錠	1回
	eGFR : 15～29 mL/min/1.73m ²	1回当り	25～50mg	1～2錠	1回
		1日当り	25～50mg	1～2錠	1回

* 腎機能低下時の注意データベースから取得

検査値が記載されていない場合にも対応しています。

例

腎機能の低下状態の登録に基づき、腎機能障害の程度に応じた「1回量」と「1日量」のチェックを行うことが可能です。

『ザルティア錠 2.5mg』の添付文書（抜粋）

通常、**成人**には**1日1回**タダラフィルとして**5mg**を経口投与する。

【用法及び用量に関連する注意】

中等度の腎障害のある患者では、本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがあること及び投与経験が限られていることから、患者の状態を観察しながら**1日1回2.5mg**から投与を開始するなど考慮すること。

『ザルティア錠 2.5mg』のデータ（概略）

年齢区分	腎障害区分*	投与量区分	用量 (成分量)	用量 (製剤量)	1日の 投与回数
成人 (15歳～65歳未満)	—	1回当り	5mg	2錠	1回
		1日当り	5mg	2錠	1回
	中等度腎機能障害	1回当り	2.5～5mg	1～2錠	1回
		1日当り	2.5～5mg	1～2錠	1回

* 腎機能低下時の注意データベースから取得

投与日数制限や休薬日数の記載に対応

投与期間や休薬期間が定められている薬品の投与日数（上限・下限）、休薬日数（下限）情報を保持しており、投与日数や休薬日数のチェックを行うことが可能です。

例

『ティーエスワン配合カプセルT20』の添付文書には、「28日間連日経口投与し、その後14日間休薬する。」の記載があります。このような場合、「投与日数」と「休薬日数」のチェックを行うことが可能です。

『ティーエスワン配合カプセルT20』の添付文書（抜粋）

通常、成人には初回投与量（1回量）を体表面積に合せて次の基準量とし、朝食後及び夕食後の1日2回、**28日間連日経口投与**し、その後**14日間休薬**する。これを1クールとして投与を繰り返す。

『ティーエスワン配合カプセルT20』のデータ（概略）

投与日数（下限）	投与日数（上限）	休薬日数（下限）
28	28	14

成人量のための記載から小児などの投与量に対応

添付文書の記載が成人量の場合、成人量を参照した小児用量算出用データを作成しています。これをもとに、von Harnackの表やAugsberger式などを用いて算出した小児用量で、チェックを行うことが可能です。

例

『フロセミド細粒4%「EMEC」』の添付文書には成人量の記載しかありませんが、小児用量算出用データを用いて、von Harnackの表から小児用量の算出を行い、処方量のチェックをします。

『フロセミド細粒4%「EMEC」』の添付文書（抜粋）

通常、成人にはフロセミドとして**1日1回40～80mg（本剤1～2g）**を連日又は隔日経口投与する。

『フロセミド細粒4%「EMEC」』の小児用量算出用データ（概略）

投与量区分	年齢区分	用量（製剤量）	1日の投与回数
1回当り	－	1～2g	1回
1日当り	－	1～2g	1回

von Harnackの表

年・月齢	3カ月	6カ月	1歳	3歳	7.5歳	12歳	成人
小児の薬用量比	1/6	1/5	1/4	1/3	1/2	2/3	1

1歳の患者さんの『フロセミド細粒4%「EMEC」』の1日の用量（製剤量）算出例

$$0.25\text{g} = 1\text{g} \times (1/4)$$

$$0.5\text{g} = 2\text{g} \times (1/4)$$

データベースの機能

投与量や投与回数、投与日数、休薬日数などをチェック

年齢や体重、体表面積、適応病名、投与経路、療法毎にデータを作成しており、各種条件に応じた投与量や投与回数、投与日数、休薬日数などのチェックを行うことができるため、処方入力や処方内容の監査時のチェック、患者さんへの服薬指導にご利用いただけます。

また、腎機能低下時の注意データベースやタイミングデータベースとあわせたチェックも可能です。

高品質な医薬品情報データベースで様々な課題を解決

データインデックスの医薬品情報データベースは、薬剤師や専門スタッフによる日々のメンテナンスと独自の情報処理技術を基盤としています。豊富な情報量と高い品質を兼ね備え、医薬品情報によって病気の治療や健康をささえる「情報医療」の推進に貢献します。

詳しくはこちらから → <https://www.data-index.co.jp/>